

## 現場紹介

### ラ・フォーレ唐瀬

#### 新築工事

建築本部 佐藤保之

当現場は、静岡市の静岡バイパス唐瀬ICの北側に位置しています。工事概要としては、RC造8階建ての43戸の分譲マンションで、3LDK・4LDKのファミリータイプとなっております。

発注者は鴻池建設(株)様、工期は平成15年11月1日より平成16年8月30日です。建物は、山本寛齋プロデュースで行われていて外観、室内共に白を基調に統一されています。

工事の状況としてはA棟が8階建てB棟が6階建てで、現在B棟躯体は上棟し、A棟も6月末に上棟する予定で工事を進めています。仕上げ工事についても1階より随時工事を進めている状況です。



今後も協力業者皆さまの力を借り、工事がスムーズに又無災害で終わるように頑張っていきたいと思えます。また、春から静岡営業所も開設されていますので、会社の施工力をアピールできればと考えています。

### 平成15年度

#### 三遠南信寺野西

#### 進入路工事

土木本部 大村庄吾

この工事は、三遠南信道路(三河・遠州・南信濃を結ぶ)において、引佐町を基地に南北方向へのトンネル工事を行う為の進入路工事です。県道渡川蓬萊線から寺野川沿いに護岸を施工しながら進入路をつくります。

現場は下流側が小笠原マル昇(株)、上流側(約800m)が中村建設(株)となっております。下流・上流同時発注同時施工という事で、町道寺野中道線の拡幅工事を行い工事用道路とし、完成後進入路工事を施工します。

6月現在、町道拡幅工事は構造物工が終了し残りは盛土工・舗装工となりました。進入路工事はボックスカルバート工を行っています。また、町道および進入路工事区域は有名な地すべり地域である事と、それから



雨期の中での護岸工事という事で、現場代理人の玉木正之さんと5月から応援の伊藤彰記さんを中心に山川双方に悪戦苦闘しています。トンネル工事の関係上、平成17年3月末完成という工期的にも厳しい工事ですが、無事故無災害で工事を終える事が出来るよう、協力業者含め一致団結し工事を進めていきたいと思えます。

## マレーシア訪問記

イワレキ 仲上吉貴

去る4月17日より4月22日までの6日間、中村社長、中津川常務、仲上の3名でマレーシア(クアラルンプール)へ行って来ました。その報告をさせていただきます。今回の主な目的は、MARRA理事長表敬訪問と第4回来日研修生との面談及び中村建設研修生OB会の発会式。テカート社の訪問、ポンプライトの紹介、排水性舗装の技術紹介と研修生OBの現場視察です。

まず1日目は日程の都合でランカウイ島の宿泊でしたがホテルにチェックインしたのは午後11時と遅く景色を見ることが出来ませんでした。それでも翌日はマハティール首相のミュージアム(世界各国からの贈答品を展示してある博物館)を見学し、クアラルンプール空港では、マイモン女史(マラ日本語センター



オイスカ マラ日本語センターにて  
中央 中村社長・左側 マイモン女史 右側 ジャファア史 後列 研修生とOB

所長)とナスル君(研修生2期)が迎えてくれました。

3日目はマラ公団理事長への表敬訪問から始まりました。理事長は以前に来日された時より体格も立派になられており威風堂々とされ、威厳を感じられました。次はマラ日本語センターにて3期目となる研修生と懇談しました。交流会では学生の自己紹介があり、中村社長からは学生達に激励の訓話がありました。

午後からはテカート社への訪問でした。この会社はもとマラ公団の建設事業部門で、現在は独立して主に国の建設事業のコンダクトとビルメンテナンスを中心に事業活動しているとのことでした。日本円で3000~40000億の規模をこなしているとのこと。ここではジャイミ取締役とマストウキ取締役と懇談しました。

当社からはポンプライトの売込みと透水性舗装の技術紹介をしました。ポンプライトについては大変興味をもたれ、マレーシアの工業規格と消防法がクリアできればぜひ取り入れたいとの話でした。又、透水性舗装も、興味を持たれ具体的な質問があり、ぜひマレーシアでも施工したいとのことでした。話だけでなく実現できれば良いと思えました。

4日目は研修生OBのアジズ君(研修生2期)の勤務している建築現場の視察へ行きました。現場の概要はSRC17階建て250戸の集合住宅3棟、約800戸の規模、そのうちアジズ君の担当している1棟を視察

しました。アジズ君のポジションは中国人の所長、中国人の課長がいてその下でも現場での労務管理、作業指示等の仕事をしているとのことでした。現場の状況は躯体がほぼ打ちあがり内装とサッシの取り付けをしていました。又、安全より効率を優先しているのか安全管理については日本より遅れているようでした。技術的にはだいぶ進歩しているように思われましたが、大体が中国人の管理のもとに施工されているようで、マレー人にはもっと頑張ってもらいたいと思いました。

最後の夜は我々と研修生OB3名、マイモン女史と会食をしました。研修生それぞれが中建での生活を懐かしみ良い経験になったと言っていました。またぜひ中建のみなさんと、会いたいとも言っていました。

最終日はジャファア氏の見送りを受け、後る髪を引かれつつ帰路につきました。